

Information & HIROBA

【各地の活動紹介】

■「思いやりキャンペーン」スタート

福井県本部（事務局・福井放送「FBC」）では、旅行先の体験から親切や思いやりについて書いた「小さな親切」作文コンクールの入賞作品がきっかけとなり、

「思いやりキャ



キックオフイベントでは
ティッシュを配りPR

ンペーン」をスタートしました。

今秋の国体開催や2020年の北陸新幹線開通など、観光客の増加が予想される福井県。思いやりや親切について改めて考え、観光客をあたたくもてなそうというねらいがあります。

3月31日（金）、市内のショッピングモールで、キックオフイベントを開催。標語コンクール入賞作品と「小さな親切」八か条がプリントされたティッシュを配り、活動をPR。

4月1日（土）には、FBCラジオが思いやりについて考える特別番組を放映し、中央本部・鈴木恒夫代表が電話出演。「一人ひとりができる親切をすることが、周りの人を喜ばせる」と語り、福井県の活動にエールを贈りました。

■50周年おめでとう

今年度、運動加入50周年を迎える長岡市立深沢小学校（新潟県）。4月9日（月）、入学式が行われ、新一年生が7名入学しました。同校の活動は、「小さな親切」誌秋号（No.507）で詳しくご紹介しましたが、上級生と下級生が力を合わせて「しんせつタイム」（掃除の時間）に取り組むなど、仲の良い姿が印象的でした。先輩たちが大切に守ってきた「小



運動加入50周年を迎えた深沢小の入学式

さな親切」を、頼もしい新入生たちも受け継いでくれることでしょう。

■急な雨も大丈夫

山口県下松支部（事務局・下松市社会福祉協議会）では、「小さな親切」運動のロゴが入った貸し傘を製作し、市内の公民館と福祉センター12か所に配布しました。この傘は、貸付簿に名前を記入すれば、だれでも借りることができます。天候不順が多いこれからの季節。急な雨の日の「小さな親切」として、利用者に喜ばれることでしょうか。



ロゴ入りの貸し傘を製作

■千葉県の活動をPR

3月7日（水）、千葉県本部（事務局・千葉興業銀行）の大木浩事務局長が、茂原東口タリークラブで「小さな親切」運動の卓話を行い、千葉県の運動の歴史や、県下11支部の活動などを紹介。東京に近く、近年人口が増加している千葉県では、作文コンクール応募者数が増加傾向。また、小中学生への「小さな親切」実行章の贈呈にも力をいれ、毎年たくさんの推薦が各支部から寄せられています。

大木事務局長は「子どもたちの親切心を育てる大事な活動であること」をPRして、少しでも賛同してくださる方が増えれば嬉しい」とおっしゃっています。

【お知らせ】

■実行章バッジを値上げ

材料費等の高騰により、実行章受章者にご購入いただいているバッジの価格を、今年度より値上げさせていただきます。

（旧）135円 ↓ （新）150円（税込・送料別途）

【お悔み】

謹んでご冥福をお祈りします。

お便りありがとう

作文コンクール入賞のロンドン日本人学校・伊原由佳さんのお母様より：
娘は年明けより一人で一時帰国して受験に臨んでいるのですが、副賞で頂いたカシオの電波時計を「お守り代わり」と言って持っていきました。「小さな親切」について書いた作文がきっかけで、娘も私も皆様から小さなご親切をたくさんいただいた思いです。

本当にどうもありがとうございました。

(編集部：お嬢さんは無事、志望校に合格されました。おめでとうございます！)

「しんせつ」標語紹介

栃木県宇都宮支部（事務局：栃木銀行）が、標語コンクールの優秀作品のポスターを作製。



【招き猫当選者】

新春号 (No.509) 今戸神社の招

篠原康次郎さん

(広島県本部前代表・中央本部

前顧問)

麻生俊介さん(愛媛県本部前代表)

福田浩一さん(山口県本部前代表)

水上平吉さん(北海道本部監事)

き猫にたくさんのご応募ありがとうございました。

当選者は2名の方です。

小関ひとみさん(山形県)

沢崎恭子さん(滋賀県)

おとなの作文

「親切が生むもの」 宮城県 鈴木千香子

「よかつたら撮りましょうか」。

恋人と出かけたデイズニールランドで、若い女性にその声をかけられた。ライトアップされたシンデレラ城をバックに、彼が私の写真を撮ろうとしていたときだ。私たちは突然の申し出に驚きつつも、その女性にシャッターを押してもらった。

これまでも、「撮ってもらえませんか」と頼んだことはあった。しかし、自ら申し出てくれる人に出会ったのは、そのときが初めてだった。

「いい人だったね」「さすがは夢と魔法の国だね。私たちはそんなふうに言い合いながら、笑顔でその日一日を締めくくった。

しかしそれは、魔法の国だけではなかった。その後もさまざまな場所で、同じように声をかけられた。家族と登った山の山頂では、老夫婦に、「せっかくだから、全員で写らないか」と言われ、シャッターを押してもらった。

友人たちと行った旅行先でも、大学生らしいカットプルが、「よかつたら撮りますよ」と、集合写真を撮ってくれた。

これは、魔法ではなくて親切。楽しい場所を共有しているという親しみから、自然と生まれる親切なのだ。そう気がつくとき、今度は俄然、自分で

【お詫び】

「小さな親切」誌新春号 (No.509)

2頁に氏名の誤りがありました。正しくは次の通りです。

・左上写真キャプション：(誤) 青森

銀行 建部礼二専務取締役↓(正)

建部礼仁専務取締役

関係各位にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

も声をかけてみたくなった。これまでも、撮ってくれた方には「私をかけたことは、まだ一度もなかったのだ。それからどこかへ出かけると、写真を撮ってほしいような人はいないか、それとなく見渡すようになった。

最近では、「自撮り棒」を使っている人も多く、声をかける隙がなくて、寂しい気持ちになることもある。

人に頼めばいいのだ。もしくは、私がシャッターを押してあげる。出先での楽しみとはなんだろう。同行者との話らい、美しい景色、おいしい食べ物。その中には「出会い」もきつと含まれる。

「よかつたら撮りましょうか」。その一言から生まれる一期一会の出会い。短いけれど大切な交流。本当に人が笑顔になるのは、そんな時なのではないだろうか。

だから私はこれからも、小さな出会いや交流を大切にしていきたい。

そして、なるべくならば自分から、出会いや交流を生み出したい。

「よかつたら撮りましょうか」。